



Lesson 9 洗礼の証しの準備

★はじめに★

洗礼式では、一般に、洗礼のまえに受洗者が「証し」することになっています。ここでは、「証し」の準備の方法をお伝えします。

「証し」とは、神様が自分に何をしてくださったかを他の人に伝えるものです。洗礼の前に行われる証しは、なぜ洗礼を受けたいと思っているのか、神様はどのように自分を救ってくださったか、イエス様を信じる前の自分はどうかだったか、今はどうかなどをあらかじめ文章に書いておき、それを読む方法が一般的です。神様が何をしてくださったかが伝われば、短くても、文章が上手でなくても問題ありません。大切なのは率直に事実と自分の思いを書くことです。神様がくださった恵みがよく伝わるようにお祈りして、心配せずに書きましょう。あなたの証しを神様は用いてくださいます。

1. ポイントを書き出してみる

まず、ポイントを書き出してみましょう。

(1) 信じる、あるいは受洗を決心する前の自分について

信じる前、受洗を決心する前の自分を振り返ってみましょう。信じる前にかかえていた問題がありましたか？どんなことに悩んでいましたか？なぜ決心ができなかったのでしょうか？すべて細かく告白しなければいけないわけではありません。信じる前、決心する前の自分について、書ける範囲で書いてください。

例 自分に悪いことをした人がゆるせなかった、自分がいやで絶望の中にいた、あまり洗礼が大事だと思わなかった

(2) どのようにイエス様を信じたか

いつ、どこでイエス様を信じましたか？どんなきっかけで信じましたか？どうして信じることにしたのですか？具体的に書くことで、より神様の恵みが伝わりやすくなります。とくに、どうして信じるように導かれたかについて記してください。子どもの頃から教会に行っていた人は、いつ、どこで信じたかはっきりしないかもしれませんが、でも今確かに信じているなら、受洗をなぜ決心したのか、今何を信じているかを書いてください。

例 いつ 2000年〇月〇日あるいは、2000年夏
 どこで 〇〇バイブルキャンプで、教会での学びの中で
 きっかけ 高校の友人に誘われて、小さい時から教会に行っていて
 どうして 自分の罪を赦していただきたいと思ったから、神様に愛されていることがわかったから、自分の問題を解決してくださる方は神様しかいないとわかったから

(3) 信じた後の自分について

イエス様を信じてから、あるいは受洗を決心してから、あなたの人生や生き方、心はどのように変わってきましたか？

例 心が明るくなった、問題は解決していないのに平安になった、神様におまかせできるよう

になった、きれいな友人をゆるせるようになった

(4) みことば

イエス様を信じるきっかけとなったみことばは何ですか？今イエス様に救われていると確信できるために、あなたを助けるみことばはありますか？もし具体的にわからないと思ったら、牧師やあなたを導いてくれた人に助けってもらってもいいでしょう。迷ったとき、みことばは私たちの確信をゆるがないように助けてくれます。

2. 実際に書いてみる

書き出したポイントをもとに、文章を作ってみましょう。字数は、原稿用紙2～3枚程度(800字から1200字程度)が一般的ですが、もっと短くても構いません。3～4分くらいで話せる長さがよいと思います。詳細は教会によって違いますので、相談してください。

次の二つは実際の証しの例です。

証し例1

小さい頃から「いい子」という評価の中で生きてきた私は、中学2年の頃から、だれに対しても本当の自分を出せないことを悩み始めました。中学3年のとき仲のよかった友人から、生まれて初めて私の性格を批判され、それがもとでその人と卒業まで絶交してしまいました。その後も、私は彼女に傷つけられたことで、彼女を憎み続けたのです。

高校に入学したとき、同じクラスにクリスチャンがいました。私は彼女と親しくなり、やがて彼女に助けられながら、自分で聖書を読むようになりました。その年の夏休みに、その人に誘われ、1週間のキャンプに参加しました。毎日、朝と夜に聖書のお話がありました。3日目の夜に、一人の人が、どうしてキリストを信じるようになったかという話をし、その後に宣教師の先生から、イエス・キリストが十字架にかけられた意味についての話がありました。それは、すべての人は神がいるのに神を無視して自分勝手に生きていること。それが、聖書の言っている罪であり、すべての人の罪のために、キリストが十字架で身代わりの罰を受けてくださったのだということでした。そして、キリストは三日目によみがえったので、このキリストを信じるときに、すべての罪がゆるされて永遠のいのちをいただけるという内容でした。

話を聞いているうちに、友人を憎み続けていることや、自分の性格で悩んでいたことなどが思い出され、何も解決しないでいることに気づきました。そして、今聞いているイエス・キリストというお方がこのことを解決してくれるかもしれないと思い、先生から「今日イエス・キリストを信じれば、あなたの罪はすべてゆるされます。今日信じる人は、手をあげてください。」と言われたとき、イエス様が助けて下さるのに賭けてみようと思い、思い切って手をあげました。私の心の中に、中学時代の友人を憎む心が解決していないという問題が浮き彫りになりました。信仰を持ってから3か月間、聖書を読むたびに「その怒りを捨てて、相手をゆるしなさい」と、迫られました。

私はゆるせない毎日反発し続けましたが、あるとき新約聖書エペソ人への手紙4章3節のこぼれを讀んで、神に自分がゆるされた者であることが分かり、憎んでいた相手をゆるしますと祈ることができました。その後、大変気持ちが楽になり、中学時代の友人に手紙を書いて、あやまることができたのです。

この体験は、私にイエス・キリストを信じたことが間違いではなかったことを、強烈に刻み付けるものとなりました。

新約聖書 コリント人への手紙第二5章17節「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」(1,110字)

証し例 2

大学への進学を機に、この教会に通い始めて、もうすぐ 4 年が経ちます。クリスチャンホームで育ち、物心ついた時には日曜日は教会で過ごすのが当たり前になっていました。信仰を持ったのは、中学生の頃です。日曜学校の中で自分の意見や考えを聞かれる場面が増え、それまで曖昧になっていた部分と向き合い、考えるようになりました。日曜学校の先生から、「イエス様の十字架をただ歴史的事実としてだけで見ているとしたら、それは知識であって信仰ではないよ」と言われました。そして「どう思う？信じている？」と聞かれた時に、自分のこととして信じ受け入れていると言いました。

それから、バプテスマを受けるタイミングは何度かありました。しかし、その時その時で自分の心に何か引っかかるものがあって、素直に受けたいと思えず、告白する勇気が持てずにいました。特に大学生になってからは、このままではいけないと頭ではわかっている、気持ちはいつも後ろ向きでした。

周りから洗礼はいつ受けるのか聞かれるのが重荷になっていた時期もありました。「就職したら忙しくなるよ」という父からの勧めもあり、大学 3 年生の時に一度はちゃんと向き合おうとしました。ですが、友達との遊びを優先したり、口を開けば愚痴ばかり言う自分がいて、どうすればいいかわからなくなりました。

ですが、神様から心が離れていかないようにお祈りをし、少しずつ変えられていきました。22 年間生きてきて、苦しい時、心配な時、不安な時はいつも神様にお祈りしていました。神様はどんな祈りにも聞いてくださるお方です。「走ること」で乱れた心を落ち着かせ、その時の空や自然の景色を見て、神様が創造された素晴らしさを感じることができました。毎日の生活の中で神様の恵みを感じ、感謝だなど思えるようになりました。そして、自分の中だけでとどめているのではなく、洗礼を受けて、堂々とクリスチャンとして生きていきたいという思いが強くなりました。本当に自然に決めることができたので、きっかけは特にありません。神様が少しずつ私を変えていってくださったのだと思います。

私は、信じていると思っても信仰が薄くなってしまったり、神様の御心は違うとわかっている気づかないふりをしたり、罪をおかしていても罪だと認識できない本当に罪深い者です。今は、それらを自分でどうにかしようとするのではなく、神様により頼み、罪がしめされた時は正直に告白し、信仰は神様が強くしてくださるものだと思えるようになりました。私の罪のために、イエスさまは十字架で死なれ、3 日目によみがえられました。イエスキリストは私の唯一の救い主であることを確信しています。

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」ローマ人への手紙 10:9-10 (1221 文字)

救いの証しは、聞くクリスチャンにとって神様の恵みを新たに思い、感謝するときです。信じていない方にとっては信じるための助けになるかもしれません。証しすることも神様への尊い奉仕の一つです。ぜひ、祈りつつ、心をこめて準備してください。

★みことば★

あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。

(マルコの福音書 5 章 19 節)